

【番組紹介】FACES(いじめをこえて)は、NHKと海外の放送機関が連携し、いじめのつらい体験から自分らしく生きていけるようになったきっかけを語る動画。世界中の、いじめでつらい経験をしている方々に、「何かできること」を考えるきっかけになれば。そんな願いから、たくさんの国や地域に呼びかけ、多くのメッセージ動画を制作・発信している。いじめをノックアウト番組サイトでも紹介されている。

【授業の概要】

FACESの視聴とその後のグループ話し合いを通して、一人一人が様々な課題に対応しながら生きることや自立していくことについて考えた。多様な他者と協働しながら、自分なりの人生を作っていく(=自己肯定感を高める)きっかけを作ることを期待して本実践を行った。対話から、考えを整理したり、広げたりしながら一人ひとりの考えを深めていくことができた。

【実践者による番組(FACES)分析】

- 2分間という短い時間の中で、出演者の今日までの軌跡や自分らしく生きる姿を感じることができる。
- 多様なバックグラウンドをもつ人が出演しているので、自分と似ている人を見つけたり、実生活では関わる機会がなかった人と出会ったりすることができる。
- 他言語を話す出演者の映像には、日本語字幕が挿入されている。児童の実態に応じて、字幕で使われている表現や漢字表記に配慮が必要。

【授業の流れ】6年 特別活動

題材名 今と未来の生き方を考える「とびら」を見よう

学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

1. 本時のテーマを知る

「自分を大事にするために、“生き方”について考えよう」

2. アナスタシアさんの困難の乗り越え方「とびら」を考える

【FACES アナスタシア視聴】※全体視聴后感想交流
○アナスタシアさんが乗り越えられた訳を考える。
○自分がアナスタシアだったらという視点で意見交流することを通して、人それぞれ困難の乗り越え方が違うことを知る

3. 自分らしく生きていくための困難の乗り越え方「とびら」をさがそう

【FACES ローラ・タカヒロ・ナタリア視聴】

※全体視聴後小グループ活動

○自分が考えた3人の困難の乗り越え方「とびら」についてグループで共有する。



4. 自分らしく生きてくための「とびら」を紹介し合う

○自分の「とびら」をカードに記入し、黒板に貼って視覚化する。

○「とびらが無い!もうだめだ!と思っても、勝手にとびらが開くときもある。だれかが開けてくれる時もある。」ことを伝える。

5. 本時を振り返る。

○授業の感想をWSに記入し、学級全体で共有する

【授業の工夫点】

ネームプレートを用いた意思表示

黒板に書かれたスケールの中にネームプレートを貼り、全員が意思表示をした。友達の意見の傾向を把握したり、自分の立場が明確にしたりして、全体での意見交流をしやすくした。また学級全体で「自分だったら」という視点をもって考えた経験が、活動4の自分の「とびら」を見つけることに結びついていくようにした。

再視聴できる環境づくり

グループ1台のタブレットを用意し、全体視聴の後にも再視聴できる環境づくりをした。印象に残った証言を共有したり、一時停止したりしながら視聴する様子がみられた。対話的な学びにより、新たな「とびら」を見つけることに繋がった。

「とびら」について共有する時間の確保

多様な「とびら」の存在について知ることが、自分らしく生きていくことに繋がると考えた。意見交流をする時間を十分に確保した授業設計をして、「とびら」に対する考えを共有することを大切にされた。また、周りの人から与えられる「とびら」の存在に触れ、気負いすぎる必要はないことも伝えた。

【本実践の成果と課題】

○FACESを活用することにより、抽象的である「生き方」について一人一人がイメージをもって考えることができていた。

○意見交流を通して、当事者はもちろんのこと、周りの人の立場や気持ちにも迫っていた。証言者の話を、多角的に分析し「とびら」や生き方について考えることができていた。

●授業を通して、児童の「もっとFACESを見たい」という思いが高まっていった。自由にサイトを閲覧する時間を設けることで、さらなる学びの深まりが期待される。